

RSS/TrackBackについて 知っておきたい2、3の事柄

自由度の高いデータ交換のために

三笠 隆
MIKASA, Takashi

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
 - XML

Level



Samples

はじめに

Webを閲覧していると **RDF** とか **RSS**、あるいは **XML** といったアイコンを目にする機会が増えてきました。とくにblogの隆盛とともに目にするものが多くなったといえるでしょう。最近ではasahi.comなどのニュース系Webサイトはもちろん、マイクロソフトのサイトでも目にするようになりました(図1)。

一方で、「TrackBack(トラックバック)」というコトバもよく目にします。

はたしてRSSやTrackBackとはなにをするものなのでしょうか。それはWeb

アプリケーションにとってなにを意味するのでしょうか。

本稿では、RSSやTrackBackとはなにか、を解説しながら、その背景にあるテクノロジーとソリューションに関する概要を紹介してゆきます。

RSS

RSSってなに?

RSSとは、カンタンに言うと新たに記事(コンテンツ)がサイトにアップされた際、その記事の、

- ・見出し情報(記事タイトル)
- ・概要
- ・日時
- ・当該コンテンツのURI

などを、テキスト(HTML)データとして書き出すためのフォーマットであり、書き出されたファイルのことをRSSフィードと呼びます。

このフォーマットには、RDF(Resou

図1: MSDNオンラインでもRSS配信中



rice Description Framework) に準拠したもの、非準拠のもの、さらに非準拠のものを拡張したものの3種類がありますが、いずれもアップされた記事の概要を時系列に沿ってたやすく把握し、興味のある内容であれば即座に該当記事へのアクセスを可能にしてくれる点は同じです。

通常、概要は記事を記述しアップロードしたユーザー（あるいはサイト管理者）が記述することになっているので、しばしば概要がない場合も多く、その場合はプログラムの“記事本文の先頭から何文字目まで”を概要として使用することもあるので、必ずしも正確な概要が表示されるわけではありませんが、少なくとも最新の記事タイトルは把握できます。

もちろんこれまでも、HTMLファイルのタイムスタンプを見ることで、新着記事がアップされたかどうかを把握できるCGIはありましたが、記事の内容まで確認することは不可能だったことを考えると、格段の進歩を遂げているわけです。

どう使うか

RSSフィードは、単に閲覧者の便宜のためだけにあるものではありません。たとえば、同じような趣味／嗜好をもつ他のサイトのRSSを取得し、自身のサイトに表示させることで、単なるリンク集に終わらない機能をもたせることができますし、同一サイト内の複数のカテゴリに分けたページごとに更新記録をRSSで配信し、それをトップページに表示させれば、閲覧者に何度も

リンクをクリックして該当記事へと辿ってもらうよりも効率的にアクセスしてもらえそうです。

あるいは、記事そのものの関連性ではなく、たとえば株価情報と天気情報、さらに国内情勢や政治情勢などをRSSフィードで提供しているサイトがあれば、それらの情報をタイムラグを抑えつつ、自身のサイトに表示させ、ある種のポータル的なサイトとして構築することもできます（図2）。

ただし、そうすると扱うデータが先にあげた4つの要素だけでは当然足りません。

そこでRSS 1.0ではコアとなる基本的なサマリー提供機能以外の拡張された要素に関しては、モジュールを追加する形で、より多様な要素の取り込みを実現しています。

一般に使われているのは、

- Dublin Coreモジュール
- Syndicationモジュール

の2種類です。それぞれの要素と記述内容を表1と表2にまとめました。

そのほかにもコンテンツをそのまま記述する「Content」などという、ほとんどなんのためのRSSなんだかわからなくなるようなモジュールをはじめ、「Aggregation」や「Audio」、「Creative Commons」 「Streaming」 「Event」といった多数のモジュールがあります。

これらのモジュールを導入するには単に、

```
xmlns: [モジュール名] ="名前空間の宣言文"
```

という構文で、<rdf:RDF>内に書けばOKです。たとえば、Dublin Coreモジュールの場合は、

```
<rdf:RDF
  xmlns:rdf="http://www.w3.org/1999/02/
    22-rdf-syntax-ns#"
  xmlns:dc="http://purl.org/dc/elements/1.1/"
  (略)
>
```

となります。

図2：さまざまな情報を効率的に収集できる

